

松風の音

和辻哲郎

青空文庫

東京の郊外で夏を送っていると、時々松風の音をなつかしく思い起こすことがある。近所にも松の木がないわけではないが、しかし皆小さい庭木で、松しょうらい 籟さわの爽やかな響きを伝えるような亭々ていていたる大樹は、まずないと言つてよい。それに代わるものは櫟けやきの大樹で、戦争以来大分伐り倒されたが、それでもまだ半分ぐらいは残っている。この櫟が、少し風のある日には、高い梢の方で一種独特の響きを立てる。しかしそれは松風の音とは大分違う。それをどう言い現わしたらいいか、ちよつと困るが、実際に響きそのものが相当に違つているばかりでなく、それを聞いたときに湧然ゆうぜんと起こってくる気分、それに伴う連想などが、全部違つているのである。

響きそのものが違うのは、その響きを立てる松の姿と櫟の姿とを比べて見れば解る。直接音に關係のあるのは葉だろうと思うが、松の葉は緑の針のような形で、實際落葉樹の軟らかい葉には針のように突き刺すことができる。葉脈が縦に並んでいて、葉の裏には松の脂やにが出るらしい白い小さい点が細い白線のように見えている。實際強きやうじん 韌じんで、また虫に食われることのない強健な葉である。それに比べると、櫟の葉は、櫟が大木であるに似合わず小さい優しい形で、春芽をふくにも他の落葉樹よりあとから烟けむのような緑の色で現わ

れて来、秋は他の落葉樹よりも先にあつさりと黄ばんだ葉を落としてしまう。この対照は、常緑樹と落葉樹というにとどまらず、剛と柔との極端な対照のように見える。が一層重要なのは枝のつき工合である。松の枝は幹から横に出ている、強い弾力をもって上下左右に揺れるのであるが、樺の枝は幹に添うて上向きに出ているので、梢の方へ行くと、どれが幹、どれが枝とは言えないようなふうに、つまり箒ほうきのような形に枝が分かれていることになる。樺であるから弾力はやはり強いであろうが、しかしこの枝は、前後左右に揺れることはあつても、上下に揺れることは絶対にならない。松の風の音は、右のような松の葉が右のような松の枝に何千何万と並んでいて、風によって上下左右に動かされて立てる響きなのであるが、樺の風の音は、右のような樺の葉が右のような樺の枝に同じく何千何万と並んでいて、風によってただ前後にだけ動かされて立てる響きなのである。それが非常に違うのは当然のことだと言つてよい。

松風の音に伴つて起こってくる連想は、パチツパチツという碁石の音である。小高いところにあるお寺の方丈か何かで、回りに高い松の樹があり、その梢の方から松籟の爽やかな響きが伝わってくる。碁盤を挟んで対坐しているのは、この寺の住持と、麓の村の地主とであつて、いずれもまだ還暦にはならない。時は真夏の午後、三、四時ごろである。二

人は何も言わない。ただ時々、パチツパチツと石を置く音がする。

わたくしにはこの寺がどこであるか解らない。また碁を打っている住持と地主が誰であるかも解らない。しかしいつのころからか、松風の音を思うと、そういう光景が頭に浮かんでくる。碁石の音が、何か世間に超然として存在を指しているように思える。松風の音はそういう存在の伴奏なのである。

わたくしの子供の時分には、こういう住持や地主が農村の知識階級を代表していた。その後半世紀を経たのであるから、そういう人たちはもう一人も残っていないであろう。たといそういう種族のうちで生き残っている人があるとしても、そういう生活の仕方は、もう許されなくなっているであろう。しかしああいう存在はあつていいと思う。あれもギリシア人のいわゆるスコレー（ひま）を楽しむ一つの仕方であろう。

青空文庫情報

底本：「和辻哲郎随筆集」岩波文庫、岩波書店

1995（平成7）年9月18日第1刷発行

2006（平成18）年11月22日第6刷発行

初出：「心」

1961（昭和36）年5月号

入力：門田裕志

校正：米田

2010年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

松風の音

和辻哲郎

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>